鷹南学園三鷹市立中原小学校　令和８年度　【４年生】　授業改善推進プラン

	R7授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
国語	自主学習において、漢字学習に主体的に取り組むことができるよう働きかけた。個人差はあったが、漢字テストを目的として取り組むことができる児童が多くいた。 文章の書き方等、例示を示し、児童に見通しをもたせた。語彙を増やすことを意識した取組は十分にはできなかった。	「読むこと」や「文の主語の把握」に課題が見られる。日常的な漢字使用の意識や語彙力に個人差が大きく、読み取った内容や生活経験を基に自分の考えをまとめたり、相手に分かりやすく書いたり話したりする際に、文構造を整えて言語化することに苦手意識をもつ児童が多い。	読み取り内容を整理するメモや関連資料を提示し、スモールステップで考えの材料を集めさせる。全体での話し合いを通して考えを明確にし、文の骨格や主語・述語の対応を意識して記述させる。また、単なる書き取りだけでなく、漢字を使った文作りやクイズ、読書活動を取り入れ、語彙と言葉への関心を高める。
算数	ICT教材による拡大提示や視覚的な問題把握、家庭学習での反復により、問題場面のイメージ化や基礎的な計算力定着に成果が見られた。しかし、九九を活用したわり算・筆算の確実な習熟や、文章題で自分の考えを言葉や図で分かりやすく説明する力に課題が残る。	「図形」や、「数量関係を言葉の式で表す」設問に課題が見られる。前年度までの既習事項の定着が不十分で、問題場面を正しくイメージして立式に結び付けることや、計算力（除法・小数・筆算）にばらつきがある。また、自分の考えを言葉や図で分かりやすく説明することに弱さがある。	単元の見通しをもたせるためにゴールイメージを明確にし、ICT教材による拡大提示やワークシート等で問題場面を視覚化する。計算チャレンジ等の反復活動で基礎的基本的な計算力を確実に定着させる。数量関係を図や言葉の式に表す活動を取り入れ、ペア等で考えを説明し合い対話的に深める場面を設定する。
社会	地図に触れる機会の増加や写真・グラフの読み取り指導により、地域への関心が高まり基礎的な知識が身に付いてきた。一方で、方位や地図記号を活用して空間的に捉えることや、調べた内容を自分の言葉で整理して新聞・ポスター等にまとめる力には継続的な支援が必要である。	地域や身近な生活事象への関心は高く、知っていることについては意欲的に話す姿が見られる。しかし、写真や動画、地図などの資料から自分の知りたい情報を選び取って整理することや、見通しをもって粘り強く調べ学習に取り組む姿勢に課題がある。また、調べて分かった事実を自分の言葉でまとめる力に個人差がある。	児童が興味・関心をもちやすい写真や具体的な資料を提示し、「問い」を工夫して調べる意欲を引き出す。思考を整理しやすいワークシートを活用して視覚化を図り、調べた情報を比較・分類する。単元の終末には新聞やポスターなどにまとめる活動を設定し、分かったことや考えを分かりやすく表現する力を育てる。
理科	比較する視点の提示やノート指導の徹底により、共通点・相違点に着目して観察・実験の結果を整理する力が育った。しかし、得られた結果を相互に関連付け、科学的な根拠をもとに予想や考察を論理的に導き出す力には課題が残る。	観察や実験に大変意欲的で、基礎的な事象の名称などの知識は個人差があるものの定着してきている。しかし、実験結果を比較したり関連付けたりして整理することや、得られた結果を基に「何が分かったか」を科学的な根拠をもって考察し、自分の考えや結論を論理的に導き出して記述・説明することに課題が残る。	実験結果のまとめ方や、めあてに正対した振り返りの記述方法を丁寧に指導する。日常生活や生活体験との結び付きを意識させ、児童自らが根拠をもって予想や仮説を立てられるようにする。得られた結果を基に友達と交流・検討する時間を位置付け、多様な視点に触れながら考えを広げ深められるようにする。
音楽	鑑賞での言葉の選択肢提示やリコーダーのスモールステップ指導により、感じたことを表現する意欲や基本的な指使いの定着に成果が見られた。一方で、タンギングや美しい音色での演奏の定着、曲想の変化や音色を自らの言葉で具体的に味わい説明する力には個人差がある。	制作活動に意欲的で、いろいろな道具や材料に関わって楽しんでいる。一方で、初めて扱う用具や技法への理解・活用に時間がかかる児童や、手先の器用さ・作業スピードに個人差が見られる。また、手本の模倣にとどまる傾向があり、テーマや材料の特性を生かして自分ならではの豊かな発想を広げることに課題がある。	常時活動としてタンギングや運指を確認する時間を短時間で継続的に設定し、技能の確実な定着を図る。適切な身体の使い方ができるよう発声指導を工夫し、無理のない響きのある声を育てる。鑑賞では感じ取ったことを表す言葉の選択肢を提示し、聴き取ったことと感じたことを結び付けて表現できるようにする。
家庭科			
図画工作	用具の使い方を振り返る機会や友達の作品の鑑賞を取り入れたことで、材料への関心が高まり安心して制作に取り組む姿が見られた。一方で、手本の模倣から一歩踏み出し、用具の特性を生かして自分の思いや独自のイメージを豊かに発想・表現する力に課題が残る。	制作活動に意欲的で、いろいろな道具や材料に関わって楽しんでいる。一方で、初めて扱う用具や技法への理解・活用に時間がかかる児童や、手先の器用さ・作業スピードに個人差が見られる。また、手本の模倣にとどまる傾向があり、テーマや材料の特性を生かして自分ならではの豊かな発想を広げることに課題がある。	初めて扱う用具や材料の特徴を理解できるよう試作や練習の機会を増やし、安全指導を徹底して安心して使えるようにする。多様な参考作品や技法例を提示し、見通しと意欲をもつ。制作途中で互いの作品を見合う鑑賞活動を位置付け、友達のよさや工夫から刺激を受けて自分なりの発想を広げられるようにする。
生活			
体育	ICTや学習カードによる動きの視覚化、作戦の共有により、技能ポイントを意識して意欲的に取り組む児童が増加した。一方で、児童間における基礎的な運動経験・技能の個人差や、仲間と協力して勝敗を受け入れながら運動を楽しむスポーツマンシップの育成が今後の課題である。	楽しみながら運動することに重きを置いて前向きに取り組んでいるが、これまでの運動経験の積み重ねや基本技能の習得に大きな個人差がある。また、自分たちで挑戦する意欲は見られるものの、友達と関わり合いながら互いの動きのよさを見付けたり、チームで協力して作戦を立てたりすることに難しさを抱えている。	学習カードを活用し、運動の基本的な技能ポイントや友達の動きを見合う視点を明確に身に付けさせる。グループ学習など意図的に児童同士が関わる場面を設定し、互いのよさを認め合える時間を確保する。授業の終末に振り返りの時間を位置付け、自己の課題や次時に向けた目標をもてるように支援する。
外国語	児童同士の挨拶や絵カード・ジェスチャーを活用した対話により、英語でやり取りする楽しさを味わい親しむ態度が育った。一方で、主体的に英語を声に出して練習する姿勢や、相手の意図を汲み取って自分から積極的に関わろうとする態度には個人差が見られる。	歌やゲーム、日常会話の練習に親しみ、ALTとも物怖じせずにコミュニケーションを図ろうとする姿勢が育っている。しかし、分からない単語や表現に出合った際に粘り強く理解しようとしたり、身振り手振りを交えて伝えようとしたりする姿勢には個人差があり、主体的に関わろうとする態度に個人差が見られる。	ボディランゲージや声色、表情、絵カード等を活用し、英語の意味を文脈や状況から推測できる手だてを工夫する。児童の実態や興味に応じた言語活動を取り入れ、教え合い・学び合えるアクティビティを充実させる。簡単な指示や質問に動作を交えて応答する機会を反復し、やり取りを楽しむ態度を育てる。
道徳	日常生活と結び付けた導入やペア・グループでの交流により、課題を身近に捉えて安心して多様な意見を伝え合う姿が見られた。しかし、友達の多様な考えに触れて深めた道徳的価値を、日常の集団生活や行動の中で自ら実践に移す力には課題が残る。	教材を読んで登場人物の気持ちを想像し、友達の考えを聞いて共感したり受け止めたりすることはできている。しかし、資料の中の出来事として客観的に捉えるにとどまり、自分自身の生活を振り返ってこれからの生き方について深く見つめ直したり、学んだ価値を実際の行動として実践したりすることに課題がある。	児童の身近な日常生活での場面を取り上げて導入を行い、教材の課題を自分事として捉えられるようにする。自分の考えをもった後、グループやペアで多様な考えを交流する場を設け、対話を深める授業を展開する。道徳の時間にとどまらず、各教科や学級活動と連動させて日常での実践力を養う。